



21日、中央公民館で行われた意見交換会の様子。この日は中心市街地活性化や協働のまちづくりをテーマに意見を交換しました

市政の説明や課題を議論 市議会が市民との意見交換会

5月19日から23日、市議会議員が地域に出向き、住民と語り合う「市民との意見交換会」が、市内14会場で行われました。議会活動の理解を深めてもらい、また市民の意見を市政に生かそうと、初めて実施。溝口誠二議長は「いただいた意見を政策提言に生かしたい」と話していました。



調印式での一幕。生徒たちは、「みちくさ」の8・9月号と来年2・3月号に掲載が予定されている西諸特集ページを担当します

高校生が情報誌制作に参加 小林秀峰高校と出版社が協定

5月23日、小林秀峰高校と、旅の情報誌『みちくさ』を発行する(株)アイロードが連携協定を結びました。3年生38人が、同誌の西諸を紹介するページの取材、編集や広告販売などに参加。経営情報科の野添老星さんは「たくさんの人に西諸の魅力が伝わる紙面を作りたい」と意気込みを語りました。

思いやりの心、花と共に育て 須木小児童へ「人権の花」

5月19日、花を育てることを通じて、思いやりの心を育む「人権の花」運動の苗が、須木小学校の児童に贈られました。贈呈式で、人権擁護委員らが児童3人に花苗と看板を寄贈。5年の崎山大輝さんが「人にも花にも優しい気持ちの持てる須木っ子になれるよう頑張ります」とお礼を述べました。



贈られた花は、マリーゴールドとペチュニアの苗148鉢。苗は児童らによってプランターに植えられ、校内に飾られています

県境を越えて共に力合わせる 霧島を囲む市町の問題を協議

5月23日、第14回環霧島会議が開催されました。5市2町の首長、職員ら約100人が参加。事業報告や決算報告のほか、シカなどの鳥獣被害対策や県道100号線整備などを協議しました。会議終了後、洲春会の民謡、三味線や環境省職員の森川政人さんによる外来種対策の講演がありました。



環霧島会議は、霧島を囲む宮崎県と鹿児島県の市町村の首長と議長が中心となり各専門部会ごとに問題解決にあっています



3



2



1

まちづくり協議会設立にむけて 紙屋で住民企画の大イベント

紙屋小学校区の住民が交流するイベント「紙屋一徳フェスタ」が、5月25日、紙屋小・中学校などで開催されました。住民や関係者ら250人が参加。昔ながらの遊びやスポーツ、地元の宝や危険個所を書き込む地図づくりで交流を深めました。同小では、小学1、2年生が、住民からお手玉や竹とんぼづくりを学習。同中グ

ラウンドでは、3、4年生がグラウンドゴルフ、体育館では、5、6年生と中学生が住民と地図づくりに取り組みました。イベントを企画したのは、地元住民や団体からなる「紙屋一徳まちづくり協議会」。杉田藤子会長は「多くの人に参加してくれた。きずな協働体設立に向けての機運づくりにつながってくれば」と話していました。

Photo 1 地元住民から竹とんぼの作り方や飛ばし方を教わる児童ら。2 各世代が加わり、班に分かれて競ったグラウンドゴルフ。3 紙屋地区公民館では、住民や日赤奉仕団が昼食を準備。イベント後、冷汁や鍋などが振る舞われました



6



5



4

西小林小 地域に根差した学校に 茶飲ん場と寺子屋オープン

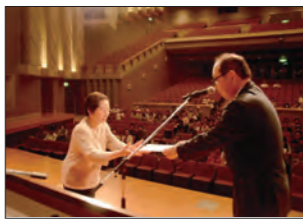
放課後に地域住民が児童の勉強をみる「寺子屋」と、住民がお茶を飲みながら談笑できるスペース「茶飲ん場」が、6月4日、西小林小学校内に同時オープンしました。地域で子どもを育て、学校に住民の交流の場をつくろうと、にっこばまちづくり協議会の青少年育成・コミュニティ部会が企画。同日、まずは1階の空き教

室に「茶飲ん場」を開設しました。地域の高齢者ら20人が訪れ、同協議会や婦人会のメンバーが準備したお茶や漬物などを食べながら談笑。その後、図書館で「寺子屋」が開校し、児童30人が、立ち寄った住民に勉強を教わりました。4年の久留木彩美さんは「国語や算数などやさしく教えてもらいよかった」と話していました。

Photo 4 空き教室を利用した茶飲ん場。放課後には、児童らも加わりお手玉などで交流。5 寺子屋で宿題の添削を受ける児童。6 多くの住民が子どもを見守る寺子屋。茶飲ん場と寺子屋は、毎月第1水曜日に開催

高齢者学級 10 学級が合同で開級式

5月17日、高齢者学級合同開級式・演芸大会が文化会館でありました。学級生ら307人が参加し、市内10学級の学級長に認定書を授与。演芸大会では、各学級による歌や踊りなどが披露されました。



宮崎・須木線の改良に向け決意新た

5月23日、宮崎・須木線（県道26号）道路改良促進協議会の総会が行われました。会員ら61人が参加し、綾町から須木区までの未整備区間16キロの改良について、積極的な要望を続けていくことなどが確認されました。



緑ヶ丘公園でガールスカウトら訓練

5月24日、県連盟ガールスカウト第14団が、緑ヶ丘公園でテント設営の公開訓練を行いました。指導を行ったリーダー長の堀穂波さんは「色々な経験を通し、社会に役立つ人に成長して行ってほしい」と話していました。



サウンドテーブルテニスで交流深める

6月8日、第16回小林親善卓球（サウンドテーブルテニス）大会がみどり会館でありました。サウンドテーブルテニスは、音の出る球を使った卓球に似たスポーツ。県内外から26人が参加し、交流を深めました。



父の日に牛乳を贈ろう

6月11日、酪農青年女性連絡協議会が市長を訪問し、乳製品消費拡大をPRしました。加藤教昭会長らは、乳牛柄の法被を着て新鮮な牛乳を贈呈。加藤会長は「父の日の贈り物で、牛乳を定着させたい」と話していました。



甘い果実に誘われて長蛇の列 メロン・マンゴーフェア開催

5月31日、第3回メロン・マンゴーフェアがのじりこぴあで開催されました。市場価格より割安で、県産ブランドの「めろめろメロン」、「太陽のたまご」や完熟マンゴーなどを販売。市内外から、約3500人が訪れ、メロン1万5000個とマンゴー1800個が売れる盛況となりました。



メロンを購入する来場客。会場には、郵便局の臨時受付も設置され、贈答品として大量に購入し、発送する人も多くみられました

内山地区に子どもの声響く 小林中の生徒ら田植え体験

6月15日、須木内山地区で中学生の農業体験事業がありました。地域住民らで結成された山びこの里実行委員会が主催で行い、小林中の生徒や地域住民ら約40人が参加。上原勝委員長は「内山小・中学校の閉校後、久々に子どもたちの笑い声を聴けてうれしい」と話していました。



もち米の苗を植える子どもたち。10月には収穫作業も行い、育てたもち米で餅つきやお菓子作りなどを予定



講座では、認知症の症状や対応の仕方などを学びます。受講希望の人は、長寿介護課（Tel.23-1140）まで問い合わせください

こすも〜認知症サポーターに 2万5千人の養成目指しPR

5月29日、こすも〜が認知症サポーター養成講座を受講しました。認知症サポーターは、認知症を理解し、認知症の人とその家族を暖かく見守る応援者。現在、6769人のサポーターが誕生しており、市では、認知症になっても安心して暮らせるまちにするため、2万5千人の養成を目指しています。



前田副市長は、真方出身。昭和46年に小林市農業協同組合に入社。JAこばやし農産部長や参事、常務理事などを歴任しました

豊富な経験と人脈を市政に 副市長に前田喜輝さんが就任

5月30日、臨時議会が開かれ、31日で退任する西川和孝副市長の後任として、前田喜輝さんを選任することが同意されました。6月1日に辞令を受けた前田副市長は「これまでの経験を生かし、地域産業の振興と市政の発展のため、職員とともに誠心誠意取り組んでいきたい」と抱負を語りました。

優雅な舞に観賞客からは歓声 ホテルまつり 1万2千人来園

5月24日から6月8日の間、出の山ホテル恋まつりが出の山公園で開催されました。実行委員会では、より間近で鑑賞してもらおうと水路沿いの遊歩道を解放。多い日には、約3200匹が飛び交うゲンジボタルの優雅な舞に鑑賞客からは「きれい!」「すごい!」など歓声が上がっていました。



昨年から4年振りに復活したホテル恋まつり。手に触れ楽しむ人もいました。今後も出の山ホテルの保護にご理解をお願いします

小林・野尻の観光協会が統合 新体制で観光の活性化目指す

5月30日、市観光協会設立総会がガーデンベルズで開催されました。今回の総会で、市観光協会と野尻町観光協会が統合。情報の共有化により、組織強化を図り、観光の活性化を目指します。吉留高志会長は「それぞれの地域性を尊重しつつ更なる連携を図っていきたい」と話していました。



観光振興や産業、文化の発展を目指し活動する観光協会。統合後も、両協会で行ってきたイベントなどについては、継続して実施します